

【会議録】

湯沢市若者や女性が輝くまちづくり推進協議会
 テーマ「公共施設の未来を考える」＜3回目＞

日 時	平成 30 年 9 月 14 日（金） 17:30～19:30	
場 所	湯沢市役所本庁舎 会議室 25・26	
委 員 出 席 者	会長 黒澤 理沙 副会長 本郷 詩津希 委員 小場 デビィ 小松 夏菜子 高橋 広子 久米 淳子 菅原 安莉 三澤 隆 小野寺 呂典 （計 9 人）	座席表 
	小野寺 呂典 菅原 安莉	2 班 本郷 詩津希 三澤 隆
市出席者	湯沢市公共施設アドバイザー、企画課長、企画政策班長、担当 （計 5 人）	
説 明	○前回の振り返り、グループワークの論点整理 	

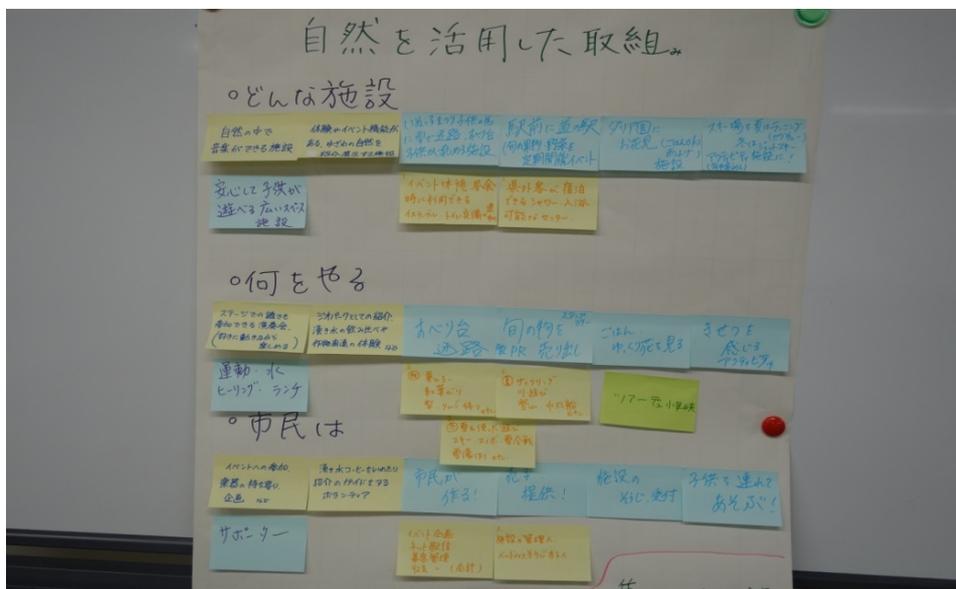
グループ
ワーク

グループワーク「まちの未来と公共施設」
テーマ 施策（取組）を実現するためには、何が必要？

< 1 班 >



タイトル1「自然を活用した取組」



【どんな施設】

- 自然の中で音楽ができる施設
- 体験やイベント機能がある、ゆざわの自然を紹介・展示する施設
- 犬っこまつり 子供の為に雪で迷路、すべり台 子供が楽しめる施設
- 駅前に道の駅（旬の果物・野菜を 定期開催イベント）
- ダリア園にお花見（ごはんOK、雨よけ）施設
- スキー場を夏はランニング（セグウェイ）冬はジェットスキーができる アクティビティ施設に！（年中楽しめる）
- 安心して子供が遊べる広いスペース施設
- イベント休憩、昼食時に利用できるイス・テーブル・トイレ完備の建物
- 県外客が宿泊できるシャワー、入浴可能なセンター

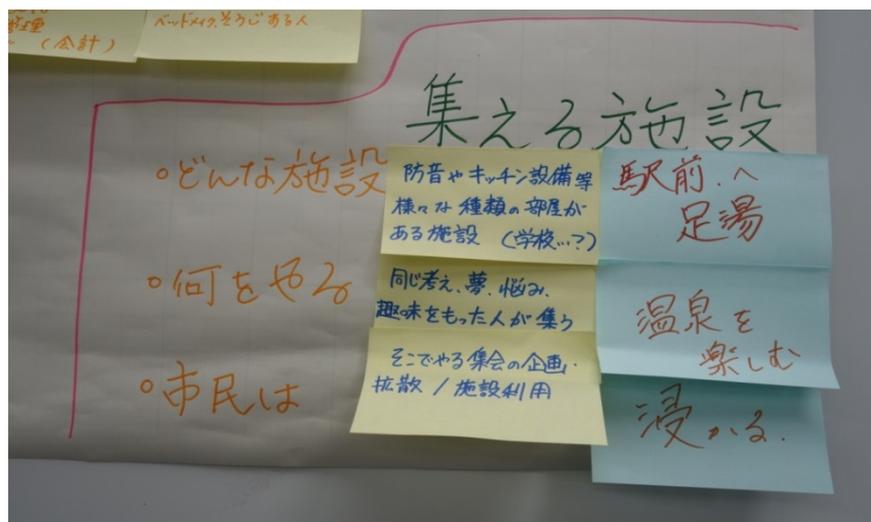
【何をやる】

- ステージでの誰でも参加できる演奏会（好きに動きながら楽しめる）
- ジオパークとしての紹介、湧き水の飲み比べや作物関連の体験など
- すべり台、迷路
- 旬のものをPR、売り出し、スタンプラリー
- ごはん、ゆっくり花を見る
- 季節を感じるアクティビティ
- 運動、水、ヒーリング、ランチ
- 秋：栗ひろい、紅葉狩り、梨・りんご狩り etc.
- 夏：サイクリング、川遊び、登山、水風船 etc.
- 冬：雪を使った遊び、スキー、スノボ、雪合戦、雪像作り etc.
- ツアーデュ小安峡

【市民はどう関わる】

- イベントへの参加、楽器の持ち寄り、企画など
- 湧き水コーヒーをいれたり、紹介のガイドをするボランティア
- 市民が作る！
- 売子、提供！
- 施設の掃除、受付
- 子供を連れてあそぶ！
- サポーター
- イベント企画、ネット配信、集客管理、収支管理（会計）
- 施設の管理人、ベトナムメイク、掃除する人

タイトル2 「集える施設」



【どんな施設】	防音やキッチン設備等様々な種類の部屋がある施設（学校…？）	駅前へ足湯
【何をやる】	同じ考え、夢、悩み、趣味をもった人が集う	温泉を楽しむ
【市民はどう関わる】	そこでやる集会の企画・拡散 / 施設利用	浸かる

発 表

○発表者 小松夏菜子 委員

私たちの班では、「自然を活用した取組」と「集える施設」について、主に「自然を活用した取組」を中心に話し合いをした。「自然を活用した取組」の中で「音楽について」「子どもについて」「四季に応じた取組について」の計3つで話し合いを行った。

1つ目が、自然の中で音楽を行える施設があればいいという案である。音楽フェスはいろいろなところで実施されているが、自然の中で演奏すると違う感覚だと思し、珍しいことだと思う。ステージでのだれでも参加できる演奏会、しかも聞く人は座って聞くのではなく自分が好きに動いて聞けたら楽しいのではないかと思った。そのイベントに対する市民の参加としては、イベント自体への参加や、楽器の貸出、演奏を動きながら聞くという参加型のイベントにする、地元のジュースを提供するなどの意見があった。

2つ目の子どもについては、犬っこまつりでは子どもの遊べる場所が少ないので、犬っこに乗って遊ぶほか、迷路や滑り台があったら子どもが喜ぶ楽しい祭りになるのではないかという案がでた。それに対する市民の参加としては、例えば中学校でお堂づくりをしているところがあるが、人数が少なくお堂づくりができなくなった学校には、迷路や滑り台づくりに参加してもらうことができるのではないか。子どもたちが遊んでいるところを安心して遊べるようにサポーターをつけたりして市民が参加すればいいのではないかという意見があった。

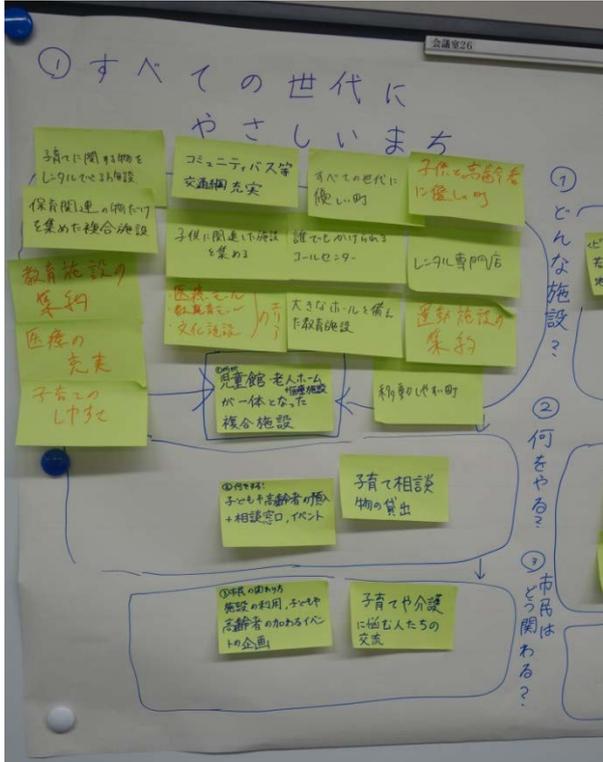
3つ目は特定の季節にしか運営していない観光施設や遊び場を1年通して使用できるようにしたらいいのではないかという案である。例えば、現在ダリア園ではダリアが咲いている時期しか使用されていないが、ピクニック感覚でみんなが楽しめるようにしたり、スキー場を夏季はランニングできるようにしたりするなど雪がない時でも楽しめるような場所であればいいという意見があった。市民の利用としては施設の管理や受付、利用することでの参加ができると思う。

集える施設については2つあるが、1つは防音部屋やキッチン設備など様々な種類の部屋がある施設、これは例えば学校でもよいと思う。そこに同じ考えや夢、悩み、趣味などを話し合える人が集って、自分たちがやりたいことをできる場所、または表現できる場所があればいいと思う。そこで行う集会の企画や、拡散を市民が担えばよいのではないかと思う。駅前での足湯については、湯沢市は温泉が豊富だと思うので、その温泉を活かし、駅前に足湯をつくって、そこで様々な世代の人が会話をする場所になればよいと思った。

< 2 班 >



タイトル1 「すべての世代にやさしいまち」



【どんな施設】

- 子育てに関する物をレンタルできる施設
- 保育関連の物だけを集めた複合施設
- コミュニティバス等交通網充実
- すべての世代に優しい町
- 子供に関連した施設を集める
- 誰でもかけられるコールセンター
- 大きなホールを備えた教育施設
- レンタル専門店
- 運動施設の集約
- 子供と高齢者に優しい町
- 教育施設の集約
- 医療の充実
- 子育てのしやすさ→児童館、老人ホーム、医療施設が一体となった複合施設
- 移動しやすい町

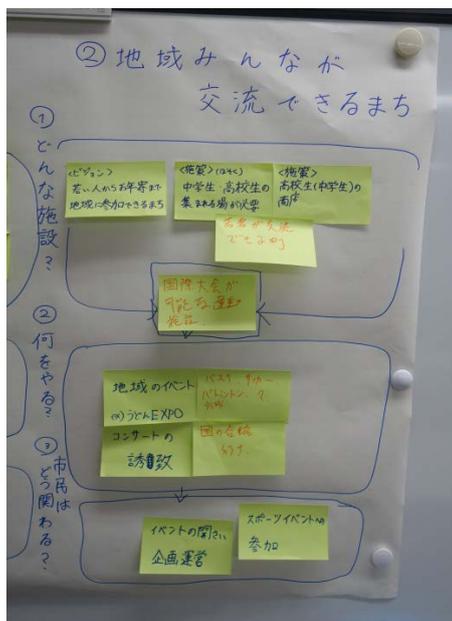
【何をやる】

- 子どもや高齢者の預け入れ+相談窓口、イベント
- 子育て相談、物の貸出

【市民はどう関わる】

- 施設の利用、子どもや高齢者の加わるイベントの企画
- 子育てや介護に悩む人たちの交流

タイトル2 「地域みんなが交流できるまち」



【どんな施設】

- 若い人からお年寄りまで地域に参加できるまち
- 中学生・高校生の集まれる場が必要
- 高校生（中学生）の商店
- 若者が交流できる町
- 国際大会が可能な運動施設

【何をやる】

- 地域のイベント（例：うどんEXPO）
- コンサートの誘致
- バスケ、サッカー、バドミントン、野球
- 国の合宿誘致

【市民はどう関わる】

- イベントの開催 企画運営
- スポーツイベントへの参加

発表

○発表者 本郷詩津希 委員

私たちの班では「すべての世代にやさしいまち」と「地域みんなが交流できるまち」という2つのテーマに絞った。1つめの「すべての世代にやさしいまち」としてどんな施設が必要かということ、例えば大きなホールを備えた教育施設であるとか、誰でもかけられるコールセンターであるとか、医療モール、教育モールなどエリアに絞ったモールをつくるという意見がでた。そのような複合施設をつくるためには、1つの場所に集約されるので、コミュニティバスや交通網の整備が必要になってくる。それらを全てあわせて、児童館や老人ホームと医療施設が一体となった複合施設があるととても便利であるという意見があった。また、そこでは子どもや高齢者の預け入れや、それにプラスして相談窓口を行えばいいのではないかと意見や物の貸出も行えばいいのではないかと意見がでた。市民の関わり方としては、施設の利用はもちろん、子どもや高齢者が関わるイベントの企画・運営を行うことができるという意見がでた。

2つめに「地域みんなが交流できるまち」というテーマでは、今まで湯沢市内では国際大会が可能な運動施設がなかったので、若者同士が交流する意味でもお年寄りや若者が地域に参加できる町という意味でも、大きい運動施設が必要なのではないかという意見がでた。そこでは、例えば地域のイベントであったり、コンサートの誘致であったり、その他にもバスケットボールやサッカーなどの国際大会が開ければいいのではないかと意見がでた。市民はイベントの開催や企画・運営、イベントへの参加ができるという意見がでた。

講評

○湯沢市公共施設アドバイザー講評



短い時間の中で端的にまとめていただいた。ポイントは2つあった。1つは、1班の発表の自然の中でコンサートができる場所がほしいという意見である。しかし、よく考えていただくとそれは目の前にある。丘の上にステージがある既存の施設を使うことによって、やろうと思えばいつでもできる、ただやるきっかけがなかったというのが実情で、それをやるのが行政の仕事であると思う。今日皆様からお話があったことを真摯に受け止めて、どうやって中央公園のステージを有効に使うことができるかを考えていかないと、宝の持ち腐れになってしまうと思う。

それから新しいテーマとして駅前で足湯をつくったり、いろいろな人が集まれるような部屋がたくさんあったらいいという意見があったが、湯沢市にはすでにたくさんの公共施設がある。学校施設がたくさんあるけれど、なかなか使いきれていない。1つ校舎が空いたとしたら、そ

この校舎の中で皆さんから提案があったことのほとんどができる。防音の音楽室もある。家庭科室もある。何かをやろうと思えば基盤が整っているということである。では、学校の施設が全て空いたときに全て使い切れるかというとなかなか使い切れない。行政では、どう有効に使ったらいいか見えてこない。校舎が空いたら、皆でどう埋めていくのかをぜひ考えていただければと思う。駅前に足湯があったらいいと思うが、実現可能かどうかはこれから考えていかなければいけない。

2班では、複合化という視点で発表していただいた。今まで公共施設というと単発で、目的ごとにつくってしまうということが多かったが、子どもが遊べる場、高齢者が集える場、あるいはいろいろな相談ができる場、そういうことを1つの場所で集約できるといろいろな人が集まって施設内交流につなげることができる。そして、そこから新しいにぎわいが発生して、街の中がすごく豊かになっていくことにもつながると思う。複合化の中から施設の再配置という事も考えていかなければいけない。国際大会ができるスポーツ施設はあればいいかと思うが、それをつくった時に使い切れるだけの種目やアイテムがでてくるのか。中身づくりを考えて1年間を通じて使いこなせるような施設でないと、結局つくってもガラガラで何も使えていないというのが実体だと思う。

例えば、小町の郷公園は非常に広い公園で平安時代を想像させる施設もあるが、なかなか使い切れていない。結果的に多額のお金を投資しても空いてしまっている。では、あの空間をもっともっと有効に使うにはどうしたらいいかを考えなければならない。今日いただいた意見のようにスポーツができる施設であったり、サッカーができるようなグラウンドでありつつ、公園としての活用もできるような場所にするという手法もあるかと思う。今ある施設をもっと工夫することによって、今日皆さんから出た意見は実現できるのではないかと思う。市では、今日の意見を整理してどう具体化していったらいいのか、貴重な提案として参考にしてもらえればと思う。

感想

菅原委員

世代、職業、立場によって様々な意見がでるものだなと思った。私は湯沢に住んで1年も経っていないが、あらためてこの町で10年、20年暮らしていくに当たって、これからの暮らしにどのようなものが必要なのか、暮らし続けるにはどのような施設が必要で、どのように使っていくべきなのかを考えさせられた。県職員としても、住民としても、いろいろと考えさせられた有意義な時間だった。

三澤委員

初めの頃はいろいろなデータを見て、民間の視点から見れば収益のとれていない建物だったり、利用者が全然いない建物だったり、個人的にはそういう無駄なものはどんどん無くしていくべきと考えていた。一方で民間ができないこと、収益にならないことをやるのも行政の務めであるとの新しい視点が加わり、考え方を改めた。現在、老朽化した建物が多いため、建て替えるのか、どうやって活用するのかを考えている最中だと思う。税金を投入するため、難しいことだとは思いますが、ぜひ市民の皆さん、若者や高齢者が住みやすいまちになるように、いろいろな意見を取り入れていただければと思う。

本郷委員

普段生活していて、例えばこの公共施設は老朽化が進んでいて使えなくなるとか、お金がかかるか、この施設とこの施設を複合化したら便利になるのではないかということを考える機会があまりなかったのもので、とてもいい体験になった。提案した内容を実現するために考える際

	<p>には、私たちだけが住みやすいのではなく、他の地域から受け入れたいと思った時に、他の地域の人たちがぜひ湯沢に住みたいと思ってもらえるために、この先どうしたらいいのかといった、先々の事を考えた取組も必要であると思った。</p>
小野寺委員	<p>公共施設は自分の中では最初、市の税収が大変だったら壊した方が手っ取り早いのではないかと考えていた。しかし、川嶋先生のお話にもあったとおり、既存の施設を有意義に使うという面でも考えなければならぬと思った。今、子どもたちがどんどん減っていて、いずれ壊さなければいけない小学校もでてくるのではないかと思うが、発想を変えて、その小学校を有料で貸し出すなどお金を生む施設にするという考え方もいいと思った。人口減少・少子高齢化がどんどん進んでいるが10年後、20年後が良くなるように皆で考えていければと思う。</p>
黒澤委員	<p>いろいろな意見があるのだなと率直に感じた。こういう施設はもっとこうしたらいいのではなかったことが多く、老朽化していて壊されるであろうものが生まれ変わる案が少しでも聞けて嬉しかった。そういう案にこれも足していったらいい、あれも足していったらいいという新たな考えが生まれ、わくわくした。ここで出た意見を参考にさせていただきたいと思う。</p>
小場委員	<p>私は日本に来る前に20万人のまちづくりのマーケティングマネジャーだった。それでも、こういう市民の皆さんが集まって話をする場は見たことがなかったので、こういうチャンスがあるのはすごくうれしい。様々な方々を集めて話をするのはすごく大事なことだと思う。湯沢は食べるものから温泉、お酒と特徴があり、リラックスするには天国だと思う。そういうものを皆さんがもっと楽しめるようになればいいと思う。これからもこういった会に参加できればと思う。</p>
小松委員	<p>「これがやりたい」だとか「これがないと厳しいな」とか、今まで自分の中で思っていたことを前向きに発信できる場があってすごく良かったと思う。例えば音楽の面から、中央公園はすごくいい場所だと思うし、今やっているピアノリレーもたくさん人が集まっているので、両方をマッチングさせて行うのもいいと思った。2班の発表であった相談窓口に関しては、とてもいい意見だと思った。前回の会議で、社会的弱者の話があったと思うが、それと相談窓口が繋がればいいと思う。私自身も将来、社会的立場の弱い人の支援をすることができればいいと思っているが、湯沢市だとそういう立場の人が交流する場がなく、相談する場所もわからない状態と思うので、いろいろな場所にフォーカスした、特化した相談窓口もあればいいのではないかと思った。いつも自分の中でモヤモヤしていたものを前向きに考えていくことができ、また話し合うことができ楽しかった。私の場合は将来に何をやるということにもつながっていくと思うので、これからも積極的に関わっていきたいと思う。</p>
久米委員	<p>今回このメンバーの中に参加させていただき、湯沢の皆さんの郷土愛を感じられて、うらやましく思い、毎回感激していた。いろいろな意見が出た中で、視点を変えたり、工夫をしたりすることで、より公共施設を活かせる方法がたくさんあるのだなと思った。私は湯沢市に住んで2年目だが、いろいろな会館やセンターを通るたびに、今までは素通りしていたものが、この会に参加したことで「この会館は新しいけれど、どのくらいの頻度で使用されているのだろう」とか「どのくらいの経費がかかっているのだろう」などと言った視点で見えるようになった。</p>

高橋委員

仕事柄、ヨガのインストラクターをしており、いろいろな公共施設を使う機会があるので、今回のテーマは切実に考えさせられた。私は施設に車で行くことができるが、近隣の高齢者の人たちは徒歩、自転車でしか行けないので、生涯学習センターなどはなくなると困ると思っている人たちが多いと思う。そういった声も聴きながら、これからもいろいろと考えなければいけないと思っている。今回1班では「自然を活用した取組」「集える施設」を考えたが、中央公園の上に野外ステージがあって、そこでは年に一度だけ国際ヨガの日に使わせていただく。無料なので嬉しく思っているし、いつもきれいで使わなければもったいないとも思っているが、日中はとても暑く日陰もない。午後1時以降にならないとステージも日陰にならず、芝生はあるが、虫が嫌いな人もいたので、自然の中でいろいろなイベントをするのは大変だと思った。それでも自然の中でこういうイベントするのは素晴らしいと思っている。

(19:30 終了)